

ML 演習 第 5 回

おおいわ
May 7, 2002

今回の内容

- 言語処理系の実装 (1)
 - 形無し関数型言語のインタプリタの作成
 - 文法と構文木
 - Call-by-value 戦略に基づく式の評価

2

言語処理系の作成

- 今後3回の予定
 - 第5回: 基本的なインタプリタの作成
 - 形無しMLの処理系の実装
 - 第6回: インタプリタの様々な拡張
 - 式の評価順序に関する考察
 - 第7回: 言語処理系と型システム
 - ML 風の型推論の実装

3

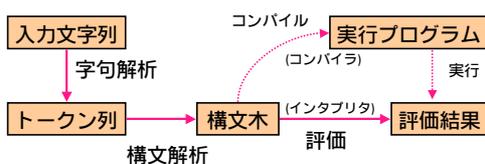
今回の言語の構文

- OCaml の小さな subset
 - データ型: int, bool, 関数, pair, list
 - 構文: 定数, 加減乗除, =, pair, ::, if, fun, 関数適用, match, let, let rec
- とりあえず今回は動的な型チェックで実装 (Scheme 風に)

4

言語処理系の構造

- 入力: プログラム文字列
- 出力: 評価結果 or 実行プログラム



5

字句解析

- 入力文字列を「単語」に切り出す
 - 例: (fun x -> x * 5) 3
 - 出力: ((fun x -> x * 5)) 3
 - ツール: lex, flex, ocamllex etc...

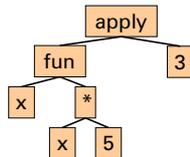
6

構文解析 (1)

- 字句の列から文法解釈して構文木に

- 例: (fun x -> x * 5) 3

- 出力:



7

構文解析 (2)

- ツール: yacc, bison, ocaml yacc, etc...

- 今回は字句・構文解析はこちらで提供します

- モジュール

MiniMLLexer: 字句解析

MiniMLParser: 構文解析

MiniMLReader: 読み込み関数の定義

8

Mini-ML の値

- ML の subset (type mlvalue: miniML.ml)

- 整数 (0, 1, 2, ...) `Int x`
- 論理値 (true, false) `Bool b`
- リスト `Nil, Cons(x, xs)`
- ペア `Pair(x1, x2)`
- 関数 `Closure([pattern, exp], env)`

仮引数

本体の式

環境

9

Mini-ML の式 (1)

- Caml 上での構文木の表現: type expr

- 定数式 `Const(x : mlvalue)`
- 変数参照 `Var(x : string)`
- 整数演算 `Plus(e1, e2)`
`Minus(...), Times(...), Div(...)`
- 等値比較 `Equal(e1, e2)`
- リストの生成 `ConsExp(e1, e2)`
- ペアの生成 `PairExp(e1, e2)`

10

Mini-ML の式 (2)

- if 文 `IfExp(e1, e2, e3)`
- lambda 抽象 `LambdaExp [IdentPtn id, e]`
- 関数適用 `App(e1, e2)`
- match `MatchExp(e, match_list)`
 - match_list: [pattern1, exp1; pattern2, exp2; ...]
- let 束縛 `LetExp([IdentPtn id, e1], e2)`
`LetRecExp ([IdentPtn id, e1], e2)`

optional 課題のための拡張。
とりあえず気にしなくてよい。

11

Mini-ML のパターン言語

- 定数パターン `ConstPtn(x)`
- 変数束縛パターン `IdentPtn(ident)`
- 任意パターン `IdentPtn("_")`
- リストパターン `ConsPtn(ptn1, ptn2)`
- ペアパターン `PairPtn(ptn1, ptn2)`

12

環境

- 自由変数と値の間の束縛関係を記憶
 - 評価の進行に応じて拡張される

例: `let x = 5 in let y = 3 in x + y`

- この下線部を評価している時点での環境は $\{x \rightarrow 5, y \rightarrow 3\}$
- Mini-ML で環境を拡張する構文の例:
 - `App, MatchExp, LetExp, LetRecExp, ...`

13

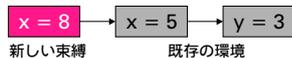
環境の表現

- 束縛 (`string * mlvalue ref`) のリスト
 - Scheme と違い、一回束縛した値は書き換わることが無いので、原理的には `mlvalue` でいいのだが、`LetRecExp` の実装の都合上 `mlvalue ref` の方が都合がいいのでこうしてあります。

14

環境の実装

- `get (miniMLInterp.ml)`
- `eval (LetExp の節)`
`let rec eval env LetExp([IdentPtn id, e1], e2) =`
`let v1 = eval env e1 in`
`eval ((id, ref v1) :: env) e2`



15

式の評価 (1)

- 入抽象
 - その時点での環境を保存
- 関数適用
 - 実引数を現在の環境で評価
 - 仮引数を実引数の評価結果に束縛し、それで保存されていた環境を拡張
 - 関数本体を拡張した環境で評価

16

式の評価 (2)

- `f := let x = 5 in (fun y -> x + y)`
 - `f : y → x + y | x = 5`
- `let x = 3 in f x`
 - この時点での環境: `x = 3`
 - 実引数 "x" の評価結果 3 を y に束縛
 - 環境 `y = 3 → x = 5` で "x + y" を評価

17

式の評価 (3)

- Let 式:
 - まず値を計算
 - 変数に束縛して環境を拡張
 - `in` 節の式を拡張された環境で評価

18

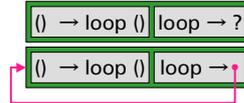
式の評価 (4)

- LetRec 式:
 - 先に環境を拡張 (中身の値は参照禁止)
 - 拡張された環境で式を評価
 - その値を束縛
 - in 節の式を拡張された環境で評価
- 自分自身が束縛された環境を参照

19

式の評価 (5)

- let rec loop = (fun () → loop ())
 - まず環境を拡張 `loop → ?`
 - 引数を評価 `() → loop ()` `loop → ?`
 - 値を ? に束縛 `() → loop ()` `loop → ?`



20

パターンマッチ (1)

- パターンと値を見比べて束縛を作る
 - データ構造パターン (ConsPtn) とのマッチは内部を再帰的に調査
- 例:
- ```
ConsPtn (IdentPtn x, ConstPtn (Nil)) と
Cons (Int 1, Nil)
→ 結果は { x = 1 }
```

21

## パターンマッチ (2)

- ```
ConsPtn ( IdentPtn x, ConstPtn ( Nil ) )  
Cons ( Int 1, Nil )
```
1. トップのデータ構造の比較:
`ConsPtn` \leftrightarrow `Cons` : 内部が合えば合致
 2. 第1要素の比較:
`IdentPtn x` \leftrightarrow `Int 1` : x を 1 に束縛
 3. 第2要素の比較:
`ConstPtn (Nil)` \leftrightarrow `Nil` : 合致

22

構文解析モジュール (1)

- Mini-ML 用パーサの使い方:
 - .cmo ファイルを3つ読み込む
 - miniMLReader.ml のコメント参照
 - ファイルは演習の URL を参照
 - なお、miniML.ml の定義を変更した場合、Makefile を用いて再コンパイルの必要がある場合があります。

23

構文解析モジュール (2)

- 例

```
# let exp = mlexp_of_string "fun x -> x + 1";;  
- : MiniML.expr =  
  LambdaExp  
    [IdentPat "x", Plus (Var "x", Const (Int 1))]  
# eval [] (mlexp_of_string "5 + 3");;  
- : MiniML.mlvalue = Int 8
```
- `fun x y → x + y` や `let f x = x + 3` などは `LambdaExp` などの組み合わせに展開されます。

24

課題1

- miniMLInterp.ml のインタプリタに、関数適用 (App) と LetRec 式 (LetRecExp) に対する実装を追加せよ。
 - それぞれ failwith “...” になっている所を各自の実装で埋めてください。
 - 実装方針はここまでの説明を参照。

25

課題2

- パターンと値をとって、pattern match 時に生じる束縛を生成する関数 match_pattern :
pattern → mvalue →
(string * mvalue ref) list
を作成し、eval に MatchExp に対する実装を追加せよ。

26

課題3 (optional)

- LetExp, LetRecExp の実装をパターンと and 節に対応させよ。
 - 束縛のタイミングに要注意。
 - [IdentPtn id, e1] と書いてあったところに [pattern1, exp1; pattern2, exp2] という形で複数パターンが与えられます。
- Lambda 式を複数パターン選択 (function 式) に対応させよ。
 - もちろん実際は App の書き換えの方が重要。

27

提出方法

- 〆切: 2002年5月21日 (火) 13:00
- 提出先: ml-report@yl.is.s.u-tokyo.ac.jp
- 題名: Report 5 学生証番号

28